

様式 1

令和 6 年度学長戦略経費（研究プロジェクト）実績報告書（研究実績）

1 研究課題名

札幌市の特別支援教育における学習環境の構築と多様なニーズに応じた支援方法の開発

2 研究代表者

札幌校・教授・安井友康

3 研究分担者・研究協力者

札幌校・准教授・齊藤真善：研究分担者
札幌校・准教授・千賀 愛：研究分担者
札幌校・准教授・山下公司：研究分担者
札幌校・准教授・池田千紗：研究分担者
教職大学院・准教授・川俣智路：研究分担者
附属小中学校・ふじのめ学級教員：研究協力者

4 令和 6 年度研究計画の達成度

- a 計画とおり達成した
 b 概ね達成した
 c あまり達成できなかった
 d 全く達成できなかった

【c 又は d を選択した場合の理由や問題点】

5 学術的成果

【論文投稿】

山下公司, 日高茂暢, 梅田真理、発達障害理解のための「LD・ADHD 等の心理的疑似体験プログラム」第 3 版の活用と効果についての検討、北海道特別支援教育研究、2024 年・18 巻、査読あり。

【書籍出版】

【学会発表】

日本 LD 学会第 33 回大会、2024 年 10 月 19 日、神戸国際会議場、山下公司、通級指導教室担当教員との連携による発達障害児の包括的アセスメントと支援方法の検討に関する一考察

第 58 回日本作業療法学会、2024 年 11 月 9・10 日、札幌コンベンションセンター、池田千紗、他、担任教員が捉える特別支援学級在籍児童の食に関する困難さ —作業療法士による学校コンサルテーションの観点—

第 58 回日本作業療法学会、2024 年 11 月 9・10 日、札幌コンベンションセンター、池田千紗、他、不器用さを有する児における紐結び動作の特徴 —2 症例の蝶結び動作の比較—

第 18 回北海道特別支援教育学会 自主シンポジウム、2024 年 10 月 6 日、旭川市民文化会館、池田千紗、山下公司、他、子どもを中心とした学校作業療法の実践と展望

日本学級経営学会第 7 回研究大会、2025 年 3 月 1 日、上越教育大学、川俣智路、特別支援学級における AI 型教材の活用の意義と課題

北海道アダプテッド・スポーツ研究会 24 回大会、2024/11/30～2024/12/01、安井友康・池田千紗、インクルーシブな運動企画「みんなのあそびば」の社会公益性から見た価値と位置付け

【その他】

特集子供の学びの質が高まる「できる状況づくり」のすゝめ—「省察」を取り入れた授業の工夫～国語・算数／数学～、特別支援教育研究 2025 年 1 月号、No. 809, pp. 8-11, 2025 年 1 月 1 日発行、津田良介、鈴木日菜（ふじのめ学級）

ユニバーサルデザインの視点を活かす！ 通常の学級における個別最適な学びと協働的な学び どの子も学べる環境を整える、特別支援教育研究、令和 6 年 10 月号、40 頁-43 頁、2024 年 10 月、山下公司

写真で見る運動発達支援と教具(第 7 回)スポーツ用具の操作を支える土台作り①なわとび、LD, ADHD&ASD、2-3 頁、2024 年 10 月号、池田千紗

写真で見る運動発達支援と教具(第 8 回)スポーツ用具の操作を支える土台作り②ボール、LD, ADHD&ASD、2-3 頁、2025 年 1 月号、池田千紗

スポーツとインクルーシブ教育、教育と医学、73(2), 54-61、安井友康

6 実践的成果

【教材】

--

【評価方法】

--

【指導（授業）案】

--

【教育方法】

--

【その他】

校内研修会「通常の学級における特別支援教育の充実」、10月25日、西岡北小学校、講演
校内研修会「通常の学級における特別支援教育の充実」、11月8日、美香保中学校、講演
校内研修会「通常の学級における特別支援教育の充実」、11月22日、みどり小学校、講演
実践発表会「読み書きが苦手な児童のアセスメントと指導」11月29日、北九条小学校、助言・講演
事例検討会アセスメント研究会、12月14日、教育大サテライト+オンライン、参加者40名
通級指導教室実践交流会、1月14日、教育大サテライト、参加者15名
校内研修会「通常の学級における特別支援教育の充実」、1月24日、幌西小学校、講演
事例検討会アセスメント研究会、12月14日、教育大サテライト+オンライン、参加者45名
若手教員向け学習会「読み書き困難の支援について」、3月9日、ちえりあ、参加者23名

校内研修会「作業療法の視点で考えるお子さんとの関わり」10月29日、清田小学校、講演
校内研修会「遊びで育てる学びの土台」10月30日、ひばりが丘小学校、講演
小樽市障がい児早期療育セミナー「言葉と身体を育てる遊びと関わり」11月15日、オンライン、講演
札幌教研東区特別支援教育研究部会「特別支援学級における作業療法の活用方法について」11月28日、栄南小学校、講演
北海道教育委員会 通級指導教室研修会「書くことを支える見る力と手指の運動」12月20日、オンライン
石狩市療育・教育連携研修会「ことばとからだを育てる遊びと関わり」1月31日、総合保健福祉センターりんくる、講演

7 その他、研究実施状況

発達性ディスレクシア (dyslexia) の早期把握と支援方法の開発」の状況

令和5年度に年長児だった児童7名は、本年度小学校1年生となった。二回目の心理検査を、各児童が所属する小学校にて実施した。小学校段階(2回目)においては、年長児の時に実施した心理検査に加え、平仮名(有意味単語、無意味単語)の音読時間の測定ならびに音読中の眼球運動を計測した。これらの参加者には、令和7年度4月末までに各児童の保護者に検査結果を個別に報告する予定である。

令和6年度に新規に参加した児童は、9名であった。児童が所属する幼稚園において、心理検査の実施を完了した。これまでに、参加児童は16名となった。札幌市教育委員会特別支援教育担当係長、特別支援教育推進担当係長、札幌市教育センター教育相談担当課特別支援教育相談担当係長との打ち合わせ、1月15日、札幌市教育センターにて、令和7年度に向けて通級担当者における研修についての方向性の検討を行った。

岐阜大学教育学部附属小中学校通級指導教室視察、1月28日、ふじのめ学級教員2名と視察を行った。附属学校における通級指導教室の構築の検討に向けた調査を行った。

第58回日本作業療法学会池田千紗、担任教員が捉える特別支援学級在籍児童の食に関する困難さ ―作業療法士による学校コンサルテーションの観点― (優秀演題賞)

札幌市立小学校支援学級の教員を対象としたアンケート調査の結果をパンフレット「偏食指導のヒントとアイデア～特別支援学級における実践～」にまとめ、札幌市立小学校支援学級および通級指導教室(195校)に配布した(3月10日)

医療専門職の活用を目的とした学校作業療法モデル事業に、札幌市立ひばりが丘小学校から参加希望があり、次年度継続的に関わって実践を重ねていくこととなった

インクルーシブな子育て支援・運動あそび支援(キンダーぷらっつ)の実施、(10月19日、11月16日、12月21日、1月25日、2月15日、3月22日)と弘前大学特別支援専攻教員及び学生、弘前大学附属特別支援学校の教員の視察受け入れ

8 使用者や研究協力先等から受けたアドバイス等

通常の学級における特別支援教育の充実について喫緊の課題であることが述べられ、校内研修会実施については、次年度も継続することとなった。また、通級担当者のスキルアップについても課題であることが共通理解され、どのように研修を進めていくか、共同で検討していくこととなった。

医療専門職の活用を目的とした学校作業療法モデル事業に参加した教員へのアンケート調査から、児童生徒の実態把握の視点が増えた、児童生徒の課題の背景を整理することができたという成果が示された。今後の課題としては、児童生徒の指導方法を進めていく中で継続して連携できるようにすること、児童生徒の他場面の様子も見てもらえるように実施場所や時間を広げることが挙げられ、連携して関わることのできる児童生徒数が限られてしまうのでもっと多くの児童生徒にこういった機会を提供できると良い、というアドバイスがあった。